

令和7年3月25日 修了式

「あなたの言葉で価値づけること」

札幌市立あやめ野中学校長 大高 雅子

あやめ野中学校での令和6年度の学校生活が今日で終わります。

この1年間、みなさんはどのように時間を使ってきましたか。3月14日の卒業式では、たくさんの保護者の方が見守る中で、3年生一人一人が、今の自分すがたで巣立っていきました。最後の合唱は息を合わせ、心を合わせて素晴らしい歌声を響かせ、会場は感動に包まれました。来賓で出席していただいたあやめ野小学校や月寒東小学校の校長先生、かつこう幼稚園の園長先生、町内会の方々が、口々に、合唱すごかったですね、とお話ししてくださいました。

最後の学活を終えた3年生は、笑顔や涙と共に義務教育の世界から巣立っていきました。3年生の城戸先生が、「最高の日は卒業式」と話していました。同感です。

中学校の卒業式は特別だと思います。それは、9年間の義務教育の終わりの日だからです。小中学校での学びや人との関わりは、多くのやるべきことの中で展開していきます。そのやるべきことには、一つ一つ異なる手順や約束があって、一つ終わったら、また次へ、次へと進んでいきます。それはみんなに等しく与えられた機会といえます。それは例えるなら、とても栄養のバランスが整っていて、ボリュームも十分なフルコースの食事のようなものです。それが義務教育なのです。最近は、その食材を自分らしく調理していく探究も加わって、考え創造する要素も増えました。等

しく与えられ、整えられた環境が義務教育の9年間なのだと思います。卒業、とはそのように整えられ守られた環境から旅立つことを意味しています。「明日からあなたは今よりも制約のない環境や自由を手に入れますよ、そして、その分だけ自分で責任をとることが増えますよ、」と、いうことです。“卒業式のすがた”というのは、9年間の学びを経てきた“結果のすがた”です。そして、呼名の短い返事は、育ててくれた人の愛情に対する感謝の心を表す場面です。私も、3年生一人一人に証書授与をしながら、

「おめでとうございます。あなたの門出を心からお祝いします。」と、まなざしを向けていました。見送りの玄関で、ある保護者の方が私におっしゃいました。「お世話になりました。うちの子は、友達や先生、いろいろな人に恵まれて、悩んだこともたくさんありましたが、本当に今日の日を迎えることができ、心から感謝しています」と。私は、「よい仲間に出会えたことは、よい仲間をつくれる力があったから。よい先生に出会えたのは、先生の言葉や教えを受け止める力があったから。そして、そのようなつながりの中で悩みを乗り越える力をつけたからですよ。」と答えました。

あなたはこの1年間、どのように自分の時間を使ってきましたか。

無駄な時間は1秒もありません。無駄にしてしまったその時間を、大切な学びの機会だったと価値つけてください。あなたが、あなたの言葉で価値づけ、そのあなたで、始めるのです。価値づけるのは、数字の結果ではありません。取組の過程を価値づけるのです。学びにおける取り組み方のこと、自分は人に対して自分がどのように関わり得たか、についてで

す。そして、次の策を発想してみるのです。策があって初めて、できる可能性の入口に立つことができます。たぶんそれは人生の中で何度も続いていきます。

最後に、春休みはSNSの罠にかからないように注意してください。

「肖像権」や「プライバシー」の侵害、名誉毀損や侮辱罪として刑事事件になる罠。もう今は、義務教育の生徒だから許す、というようになっていません。学校内のレベルでなく、あなたを社会が罰する時代です。

休み中は、家庭で過ごす時間が長いので、特段、注意してほしいことですので、私からもお話ししました。

今日から3月31日までの時間が、みなさん一人一人が、自分にとっての1年間を振り返り、成果と反省のどちらも価値づけて、次の策を考え、4月のスタートラインに立てるよう期待して、私の話を終わります。